

澤村

ベトナムでも編み地生産

タイ品は機能素材シフト

澤村（大阪市中央区）のタイ子会社、サワムラ・トレーディング<タイランド>は、ベトナム縫製品向けに現地での生地調達が増加していることを踏まえ、ベトナムでの編み地生産を始める。丸編み地、経編み地の協力工場（2社）選定をすでに完了しており、17春夏向けからの本格展開を目指す。

サワムラ・トレーディング<タイランド>はスポーツウエア、インナー向けのニット生地販売が主力。日本向けを手掛ける縫製企業向けに生地供給するが、「タイに加えてベトナムという引き出しも必要」（勝本保取締役）と判断した。

同社は今年で設立3年目になる。人員も増強しながら体制整備を進めるなど「今年は地固めの年」と位置づける。ベトナムで編み地の生産体制を構築する一方、タイ生産品は取り組む協力工場（3社）とさらに連携を強化。「日本の技術も開示しながら、開発から入り込むことで、機能品へシフトする。」

日本品の東南アジア供給体制も強化する。タイ国内に物流拠点を構えて糸、生機、染め上がりなどをラインアップ。澤村の小口出荷に対応する「ネクストステージ」の商品も一部そろえることも計画する。

澤村は北陸産地の企業との取り組みにより、インナーはじめ加工難度が高いニット生地を強みとする。その仕組みをタイ、そしてベトナムに構築することで、サワムラ・トレーディング<タイランド>の事業拡大を目指す。